学校番号	２０８

平成 31 年度　家庭科

教科	家庭	科目	ファッション造形基礎	単位数 2	２単位	年次	３年次
使用教科書	ファッション造形基礎　（実教出版）						
副教材等							

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

衣服の構成および繊維や布の特徴を知り、自分の好みや活動にあった着心地のよい衣服を製作します。またそのために必要なさまざまな縫製の方法を知り、基本的な技術を身につけます。

2　学習の到達目標

被服の構成、被服材料の種類や特徴など被服製作に関する知識と技術を習得させ、ファッション造形の基礎的な能力と態度を育てる。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・理解
観点の趣旨	実習に意欲的に取り組んでいる。	正しい採寸方法を知り、自分の体型やサイズを知る。 着用目的に応じて素材や形の選択ができる	ミシンの扱い方を身につけ、基本的な縫い方ができる。 縫製についてのさまざまな技法を身につける。	衣服製作の工程について理解できる。
評価方法	プリント確認 ミシンの扱い方 基礎縫いの提出 行動観察 作品の提出 小テスト等	ミシンの扱い方 基礎縫いの提出 行動観察 作品の提出等	ミシンの扱い方 基礎縫いの提出 行動観察 作品の提出 実技テスト等	ミシンの扱い方 基礎縫いの提出 行動観察 作品の提出 実技テスト等
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。				

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	衣服の構成 衣服の素材	衣服の構成 衣服製作の基礎 　製作のための用具 　布地の性質と扱い方 　基本の縫い方 　縫いしろのしまつ 　ミシンの使い方	○ ○	○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○	a: 衣服の基本的な構成に関心をもち、それらについての基本的な知識の習得に意欲的にとりくむ 　衣服の材料について、その種類や特徴についての知識の取得や理解に意欲的にとりくむ態度をもっている。 b: 人体の寸法・体型および動作による人体の寸法と形の変化を理解し、動きやすく、着心地がよい衣服について考える。 　衣服の種類やその製作を想定しながら、デザインや着用目的に応じた材料について考え、選択し、判断することができる。 c: 衣服の製作や選択に必要な、人体各部位の計測法を習得している。 　繊維の特徴を理解し、適切に材料を取り扱うことができる。 d: 既成服の体型区分とサイズの種類についての基本的知識がある。 　衣服の材料について、素材・繊維・糸・布の種類と特徴や加工方法について基本的知識を理解している。	プリント確認 ミシンの扱い方 基礎縫いの提出 実技テスト 行動観察 作品の提出 小テスト等

2学期・3学期	洋服の製作	衣服の製作 型紙としるしつけ 仮縫い 本縫い 仕上げ	○ ○ ○ ○ ○	○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	a: 洋服の製作技法について関心をもち、具体的な洋服の製作に意欲的にとりくむ態度をもっている。 b: 具体的な衣服の製作にあたり、着用目的・着用者の個性・流行などを考え適切なデザインを選択することができる。またその題材に応じた裁断・製図法や材料、技法・用具について考え、選択し、判断することができる。 実習題材のデザイン・材料などに関し個人の創意・工夫を表現することができる。 c: 洋服の製作の実習に際し、布地に合ったミシンの調整ができ、各パーツに適した縫製と基礎的な技術を身につける。 題材に応じた型紙の作成、裁断、仮縫い・補正、縫製、仕上げを行う技法を習得しているとともに、計画に従い能率的に製作を行うことができる能力を身につけている。 d: 洋服の種類と特徴、布地の裁断法、仮縫い・補正、縫製、仕上げなどに関し、基本的な知識がある。 型紙や布地により、必要な布地使用量について理解する。	ミシンの扱い方 基礎縫いの提出 行動観察 作品の提出等

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点
・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。